

令和 4 年度 事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1日
至 令和 5 年 3 月 31日

1. 翔裕園
2. 馬室たんぼぼ翔裕園
3. こうのすたんぽぽ翔裕園
4. ふきあげ翔裕園
5. 夢工房翔裕園
6. 栗橋翔裕園／ケアハウス栗橋翔裕園
7. 栗橋ナーシングホーム翔裕園／栗橋グループホーム翔裕園
8. 蓮田ナーシングホーム翔裕園
9. かわぐち翔裕園
10. しょうぶ翔裕園
11. 国見ナーシングホーム翔裕園
12. 亀岡老人福祉センター
13. 国見あおば翔裕園
14. 南方ナーシングホーム翔裕園／南方グループホーム翔裕園
15. ケアホテルすみさん家
16. たかのす翔裕園
17. くまもと龍田翔裕園
18. 西原ケアタウン元気村

社会福祉法人元気村

令和 4 年度
第 30 期
事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1日
至 令和 5 年 3 月 31日



社会福祉法人 元気村
翔裕園

令和4年度 翔裕園 事業報告

施設基本方針
楽しく真剣に介護へ取り組む、現場主義の実践
施設年度目標
<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での情報共有の徹底 ・ぶれない介護の実践
重点項目に対する実績報告
<p>①差別化/付加価値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人らしく、歩ける喜び・食べる楽しみ(目・味)・トイレでの排泄を生活の中で行えるようサポート GG式食事マニュアルを実践していきながら、自立支援介護を継続する →水分摂取量や運動などを意識し、自立支援介護を基本とした対応を心がけて定着、実践することができた。 しかし、コロナクラスターが発生したことでGG式マニュアルの取組みが進まない結果となってしまった。 ・個人の得意としたことや趣味を活かした楽しみのある生活をおくってもらう →コロナ禍で活動が大きく制限される環境となり、思うように進められなかった。施設内での生活活動として、複数名への取組みはできたが、評価までには至らなかった。 →デイについて、シアタールームの常時解放(上映)はでき、楽しんでもらうことができている。手芸クラブも活動時間を延長し、帰りの送迎時間ギリギリまで活動してもらえるようになっている。 <p>②組織力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特養ポスト職員の役割を果たせる環境を構築する →役割の明確化が進まず、退職者の欠員補充もできていないことから役割を果たす環境構築には至らなかった。 ・職員間の情報共有 →ほのぼのソフトの活用についてはできている職員とできていない職員がいる状況。高齢で普段からIT機器になじんでいない職員もおり、デジタルデバイドの解消が困難。その分、申し送りノートの活用を促すなどして対応した。 ポスト職員については、PC機器の入替え時に台数を増やしつつチームスアカウントも付与することで情報共有は一定程度効果が出ている。 <p>③採用力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSへ週3回以上投稿し活用していく →イベント時の情報発信はできているが、週3回の発信はできていない。また、求人応募への効果が検証できていない。 ・採用面接に施設長の他、関連セクションのポスト職も同席し採用効果を高める →下半期より面接の同席を行うようになった。現場の状況を当事者としても細かく伝えることができ、採用に繋がっている。 しかし、介護職員の応募がなく特養ポスト職の同席は実現していない。 <p>④生産性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事のon・offの切り替えを行い、職員の定着に繋げる →本館1階のスペースにドリンクサーバーを設置。ある程度の活用はされていたが、新館配属の職員は利用しにくく、施設全体としての活用とまでは至っていない。次年度は廃止予定となっている。 →上記スペースを休憩しやすい環境にしようとしていたが、コロナ対応の衛生用品の一時的な置き場となってしまった。 また、クラスター発生中はフロア間の職員移動を停めたため活用しきれず。 <p>⑤収益力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフの全日対応(デイサービス) →週5日の全日対応が人員不足によりできていないが、週4日の開催はできている。利用希望者も増えている。 <p>【全体総括】 特養で3回のコロナクラスターが発生し、その対応に追われる1年となってしまった。コロナ罹患による入院者や、期間中のショートステイ受入れの停止など、稼働が思うように伸びなかった(特養▲1.0%・ショート▲3.1%)。デイサービスでも職員が一斉に罹患し1週間の受入れ制限などがあった。思うような活動ができず、利用者および職員が窮屈な思いをする状態だったが、秋祭りとして、地域住民にも参加してもらえるキッチンカーイベントが好評。継続的なイベントとして手帳付かせていければと思う。目標の多くが達成できなかったが、大変な中職員や関係者の皆さんが本当に頑張ってくれて乗り越えられた。次年度は、弱い部分を強化し、強い組織作りをしていきたいと考える。</p>

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R3 実績	97.5	97.8	97.2	96.9	97.2	98.2	95.8	96.8	97.0	98.1	99.4	98.6	97.5%
	R4 目標	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4%
	R4 実績	98.4	98.5	99.1	99.2	99.2	95.6	95.7	96.1	94.1	95.3	95.3	90.3	96.4%
短期	R3 実績	116.9	110.2	113.3	121.3	114.6	109.5	113.2	126.9	112.4	114.6	101.7	108.9	113.6%
	R4 目標	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0	103.0%
	R4 実績	109.5	111.2	90.3	106.0	108.7	59.0	111.9	114.6	91.6	102.7	102.5	90.8	99.9%
通所	R3 実績	84.2	83.8	85.0	83.5	85.2	90.8	90.8	92.5	90.6	89.2	85.8	86.0	87.3%
	R4 目標	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8%
	R4 実績	88.8	90.7	96.3	92.9	87.7	99.4	96.3	94.3	97.6	94.8	82.8	99.8	93.5%
爽やか通所	R3 実績	57.5	60.7	59.6	55.2	53.0	55.9	60.0	60.0	58.0	52.4	47.9	50.9	55.9%
	R4 目標	58.2	58.2	58.2	58.2	58.2	58.2	58.2	58.2	58.2	58.2	58.2	58.2	58.2%
	R4 実績	48.4	52.4	52.5	47.0	42.8	45.0	48.3	46.4	46.5	47.0	47.3	47.0	47.6%
居宅(件数)	R3 実績	188.5	181.5	191	191.5	191	197.5	193	186	188	189	182.5	182.5	188.5件
	R4 目標	208	210	212	215	217	218	219	221	221	221	221	221	217.0件
	R4 実績	195.5	203	207	216.5	219	228.5	235.5	236.5	235.5	238.5	236	236.5	224.0件

令和 4 年度
第 19 期
事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1日
至 令和 5 年 3 月 31日



社会福祉法人 元気村

馬室たんぽぽ翔裕園

令和4年度 馬室たんぽぽ翔裕園 事業報告

施設基本方針

個別ケアをとりもどそう～生活意欲を支えるチームケアの実践

施設年度目標

- ① 24時間その人らしい暮らしができるようなケアプランを中心とした暮らしの支援
- ② 不適切ケアを減らす3ゼロ会議の実施
- ③ 専門職のスキルを活かした地域展開

重点項目に対する実績報告

【① 差別化/付加価値】

・施設の専門職員が出前講座と称し、自ら地域に出向くアウトリーチ支援行い、地域とのパイプ作りができた。
また、YouTubeにて栄養士によるレシピ、理学療法士による健康体操をアップし身近な介護知識をたのしく共有、拡散する活動が行えた。

【② 組織力の強化】

・不適切ケアを減らす3ゼロ会議は、毎月実施することができ、意識づけ・その意識をKEEPすることができた。
問題意識を持ち、改善していこうとする動きも見られ、チーム力の向上にもつながった。
・24時間シートは、一通りに作成することができたが、それらを発展させる、活用するまでに至らなかった。
実際に行っていることが、文字化されておらず、統一ケアに発展できていなかった。
業務マニュアル作成は行え、ユニット間での業務支援が行える時ができたが、定着はできなかった。
・実習指導者研修は、2名参加にとどまった。

【③ 採用力の強化】

・相談援助職育成のための、実習生 4名受け入れることができた。
介護職の実習生は、0名。受け入れ体制の見直しの必要性あり。

【④ 生産性の向上】

・新人職員1名は、夜勤までの変則勤務ができるまで成長した。
・24時間シートの活用は行えず、ユニット間での業務支援体制の構築ができなかった。
個別は配膳車導入による家事支援者の業務を見直し介護職員の残業削減につなげられなかった。

【⑤ 収益力向上】

・特養(従来) 稼働97.5%(-0.5%) (ユニット)97.6%(-1%) デイ 87.2%(-1.4%)
・嘱託医変更時の連携不足により、看取りへのスムーズな移行、入院者を減らすことができず、稼働率は、目標に達することができなかった。デイサービスは、コロナによる利用者数の低迷があった。
・口腔衛生管理加算の算定が行えなかった。

【総括】

・専門性を生かした出前講座・YOUTUBEの配信は、積極的に行え、「施設職員が施設から外へ出よう」という意識が定着し、地域とのつながりを意識できた。地域の方々へ専門知識を楽しく伝え何かの時には「馬室に相談しよう」の一步が踏み出せた。
・起きてしまった虐待を二度と起こさない意識を持続させるための3ゼロ会議もチーム力UPにつながり成果が出せた。
・24時間シートの完成に至らず、業務を見直しユニット間、施設全体での業務支援体制が築けなかった。
今後、業務を見直し業務のスリム化をはかり、クロスシフトにより人件費、残業代削減へつなげていくことが大きな目標。
・デイサービスは、積極的な集客姿勢を強めていき、稼働の上昇を目指したい。
・本年度より変更となった往診医との連携を深め、施設での看取りへスムーズに移行し、家族と共に穏やかな最期を迎えられるようとのえていく。24時間シートを完成させ、ご利用者様の理解を深め、想いをくみ取りご希望をかなえることができるチームへ発展させていく。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養 (従来)	R3 実績	98.6	98.3	98.0	97.0	98.4	98.4	96.9	98.4	97.8	95.5	98.9	97.3	97.8%
	R4 目標	99.0	98.5	98.5	98.0	98.5	98.5	97.0	98.5	98.0	96.0	98.0	98.0	98.0%
	R4 実績	94.3	93.8	98.4	99.4	98.9	99.3	98.1	97.6	97.1	96.9	98.7	97.3	97.5%
特養 (ユニット)	R3 実績	99.9	99.0	98.9	96.9	98.6	98.9	98.4	98.4	99.0	99.1	99.1	99.1	98.7%
	R4 目標	99.0	99.0	99.0	98.0	98.0	98.0	99.0	99.0	98.0	99.0	99.0	98.0	98.6%
	R4 実績	96.9	99.0	94.4	97.9	99.7	99.7	99.5	97.6	96.8	96.3	97.2	96.7	97.6%
通所	R3 実績	87.1	86.9	86.8	85.2	84.2	87.2	88.8	87.8	89.1	88.2	77.6	71.2	85.0%
	R4 目標	88.0	89.0	86.0	86.0	89.0	90.0	90.0	90.0	90.0	89.0	88.0	88.0	88.6%
	R4 実績	90.1	88.2	93.0	91.3	83.9	87.6	88.9	79.6	80.4	87.4	86.5	89.5	87.2%
居宅 (件数)	R3 実績	89.0	283.0	231.0	107.0	103.0	142.0	68.0	—33	282.0	229.0	303.0	471.0	209.8件
	R4 目標	218.0	216.0	218.0	218.0	218.0	213.0	209.0	200.0	206.0	218.0	218.0	156.0	209.0件
	R4 実績	265.0	314.0	174.0	277.0	233.0	236.0	224.0	212.0	395.0	218.0	218.0	239.0	250.4件

令和 4 年度
第 22 期
事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1日
至 令和 5 年 3 月 31日



社会福祉法人 元気村
このすたんぽぽ翔裕園

令和4年度 こうのすたんぽぽ翔裕園 事業報告

施設基本方針

～ 心をひとつに ～

理念浸透の継続で組織の基盤を固め、全職員が同じ方向を目指す。

施設年度目標

自由な発想で仕事を楽しみ、やりがいを実感する。
それを利用者様の生きがいに繋げていく。

重点項目に対する実績報告

①差別化・付加価値

→ 幼老世代間交流…特養・訪問ご利用者へ誕生日のお祝い動画・メッセージカードプレゼント。特養・デイのイベント参加。
→ ヤギのメイちゃんの活用…さくまひできミニコンサート、翔裕園の日、秋祭りにご利用者だけではなく地域の方とのふれあい。

②組織力強化

→ 理念浸透研修…ポスト職員が講師となり、全員受講で複数回実施。年度末近くに中途入職した職員以外は終了。
→ 職員育成…自由な発想・現場主義についてはポスト職員にほぼ定着。時期ポスト職員選出に関しては進んでいない。

③採用力強化

→ 今年度は直接応募に力を入れ(職員紹介、インスタやホームページを効果的に活用)、中途採用10名が無料で採用。
新卒育成プログラムのアレンジは手が付けられていない。

④生産性向上

→ 派遣費削減…夜勤専従派遣は終了できたが、常勤介護職員退職や休職により日中の派遣が1名プラスとなってしまった。
→ 業務効率化…iPadミニは記録時間削減・外国籍職員の記録業務に活用できず。ポスト間はチームスを活用し情報共有が定着。
現場レベル(各ユニット)にまで展開していくのは次年度。福祉機器レンタルは管理業務が軽減で効果が出ている。

⑤収益力向上

→ 稼働率…特養: 安診ネット活用するも入院が防げず、入院者が月平均117名と目標値の2倍となってしまった。
短期: 特養の入院による空床を活用し目標稼働率は達成したが、十分に活用しきれていない。
通所: 全員営業は実施できた。相談員営業件数については実績40%程度。「おいしい・楽しい・気持ちいい」イベントについては、アンケートで意向調査ニーズを把握したうえで計画・実施できた。
→ 加算…経口維持加算対象者については算定できずに終わった。喀痰吸引資格者は1名増、実地研修中が1名。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R3 実績	98.6	97.6	98.8	95.8	96.9	95.8	97.8	95.9	97.5	96.9	96.0	97.4	97.1%
	R4 目標	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5%
	R4 実績	96.4	94.6	95.3	94.6	96.0	96.7	94.2	92.4	96.4	95.6	96.0	98.2	95.5%
短期	R3 実績	103.2	101.1	96.5	103.7	101.0	99.2	103.9	98.2	96.3	98.5	101.6	97.1	100.0%
	R4 目標	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0%
	R4 実績	88.5	92.6	103.0	101.8	108.2	102.8	98.9	99.7	94.7	105.8	100.7	100.8	99.8%
通所	R3 実績	90.3	88.0	84.1	88.0	84.7	90.0	89.7	89.4	92.0	88.3	82.2	85.3	87.7%
	R4 目標	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0%
	R4 実績	89.9	89.9	87.2	85.0	82.1	83.7	88.8	53.3	79.6	81.9	83.9	85.2	82.5%
訪問 (件数)	R3 実績	283	265	328	394	403	401	428	429	441	429	439	462	391.8件
	R4 目標	502	528	546	563	603	648	696	744	792	840	888	936	690.5件
	R4 実績	513	537	522	580	573	538	580	588	667	587	595	665	578.8件

令和 4 年度
第 6 期
事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1日
至 令和 5 年 3 月 31日



社会福祉法人元気村
ふきあげ翔裕園

令和4年度 ふきあげ翔裕園 事業報告

施設基本方針

職員一人一人が業務の効率化を考え、工夫して行動しよう。
そしてビジョンを持ち、やりたいことに挑戦しよう！

施設年度目標

- ・グループ理念を意識し、一人一人がビジョンをもって行動する
- ・業務内容の工夫や見直し、個人のスキルアップを図り、業務を効率化する
- ・時代/環境の変化に柔軟に対応し、既存に縛られず、考え、挑戦する

重点項目に対する実績報告

【住宅型有料】 年間平均稼働率 94.2% (目標97%、対目標比-2.8%、対前年比-1.7%)

19床～満床で推移したが、入院者あり稼働低下。コロナや脳出血等での入院あり稼働低下

新規入居は紹介手数料なく3件本入居あり。

介護保険利用率:38% 介護保険利用料:1521万

イベントは施設内で行ったり、敬老会やひな祭りなどはライブ配信も行いご家族や他施設とも繋がれるようにした。

【デイサービス】 年間平均稼働率 72.4% (目標78.5%、対目標比-6.1%、対前年比+3.1%)

稼働向上に向けて、営業月平均93件実施。新規獲得月平均4件

欠席者を減らす取り組みとして、工作やDIYイベントなどの体験イベント、週替わりや月替わりでのメニューなど取り入れた。

第3Qで重点卒業となり、通期で収益目標達成となった。

【居室】 年間平均稼働率 41.3件 (目標42.8件、対目標比-1.5件、対前年比+2.1件)

件数は未達だったが認定調査を月平均7.1件実施し収益目標達成。

【その他】

令和5年4月1日に訪問介護開設予定。

ご入居者への介護サービスの充実、介護保険利用率向上に向けて取り組む。

①差別化/付加価値

DIYなどの体験イベント、ビックリひな祭りや浦学箏曲部とのコラボイベントなども開催した。

また、職員の得意なことをサービス転換し、工作会や尺八演奏会なども実施した。

クリスマスイルミネーションは常務理事賞を受賞し、地域の方も写真を撮りに来てくれたりし、ご入居者も地域の方も楽しんでいただけた。

②組織力の強化

役職者以外にも各施設の集まりや研修に参加するようにし、他施設と接する機会を作った。

ES調査:理念ビジョンへの共感56%(前年対比+14%)と向上あり。

③採用力の強化

ハローワークやインディードなど無料媒体への情報提供をこまめに実施。

無料媒体からの採用:常勤2名、パート3名 職員紹介:常勤1名、非常勤1名

職員の入れ替わりもあり、インスタ週3回投稿ができなかった。投稿できる職員を増やし施設PRを行っていく。

④生産性の向上

複数に分かれていたフォーマットを一つにまとめたりデイマニュアルを作成し効率化を図った。

⑤収益力向上

デイの稼働向上に向けて営業活動や新規獲得以外に、出席率を上げる取り組みを実施。週替わりでのメニュー変更、体験イベントの増加、休みが予測される方への事前連絡などを実施行い稼働向上に繋げた。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
住宅型 有料	R3 実績	100.0	100.0	100.0	95.8	95.7	100.0	92.7	95.0	96.3	95.0	95.0	85.0	95.9%
	R4 目標	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0%
	R4 実績	89.3	95.3	98.2	98.2	96.6	97.0	93.7	89.7	95.0	95.0	92.4	90.0	94.2%
通所	R3 実績	61.2	63.2	67.7	67.3	68.0	74.1	76.0	76.3	75.9	68.8	67.6	65.0	69.3%
	R4 目標	75.0	75.0	75.0	77.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	78.5%
	R4 実績	69.1	68.2	72.2	73.3	62.8	73.1	74.1	72.1	75.1	75.6	78.3	75.1	72.4%
居室 (件数)	R3 実績	29.0	32.0	35.5	38.5	40.5	43.0	43.0	42.0	43.0	42.0	41.0	41.0	39.2件
	R4 目標	42.0	42.0	42.0	43.0	43.0	43.0	43.0	43.0	43.0	43.0	43.0	43.0	42.8件
	R4 実績	41.0	42.5	42.5	42.5	42.5	39.5	41.5	42.0	41.5	40.5	39.5	40.0	41.3件

令和 4 年度
第 13 期
事業報告書

自 令和 4年 4月 1日
至 令和 5年 3月 31日



社会福祉法人元気村
夢工房翔裕園

令和4年度 夢工房翔裕園 事業報告

施設基本方針		就労支援事業所として様々な障害特性があっても一般就労を目指せる支援を行う	
施設年度目標		【就労移行支援】 一般就労へ向けた支援を計画的に進める 【就労継続支援B型】生産活動による利用者の職業能力の開発向上を図る 【全体】 利用者ニーズに柔軟に対応できる支援を行う	
重点項目と方策			
①「差別化/付加価値をどのようなものをどのように作っていくか」			結果報告
移行支援	… VR等を効果的に使い、4名の就労者を輩出する(R3.10.1～R4.9.30)	⇒	2名の就労 未達
継続B型	… 生産活動において利用者主体の作業を提供し1名の就労者を輩出する	⇒	なし 未達
②組織力の強化			
理念浸透	… 法人内講師による施設内研修を実施、朝礼で職員クレドカレンダーを毎日唱和する	⇒	実施 達成
ES調査	… 令和3年度レベル(66.6%、グレードカンパニー)の更なる向上	⇒	令和4年度74.0% 達成
③「採用力の強化(面接力やマーケティング力含む)」			
離職者を出さない。新規事業開設に向け新規採用をする。			⇒ 離職者 非常勤1名
④「生産性の向上(人員配置基準の中で人件費やシフトをどのようにコントロールするのか)」			
職員配置	… インカムを活用し業務の流れを効率化する(不必要な残業をゼロにする)	⇒	必要残業は発生
生産活動	… 農園休日営業を利用者利用日として従事することにより非常勤の勤務を減らす	⇒	農園休日営業で実施
⑤「収益力向上」			
就労移行	… GenkiGroup式収益力改善プログラムを実践し、月営業件数15件。令和3年10月～令和4年9月の就労者を4名以上にする。	⇒	就労者2名 未達
継続B型	… 【食品】餃子ECサイト5サイトにする。(BASE、メルカリ、STORES、旅色、UberEats)、焼き餃子販売。目標売上1080万円/年(90万円/月)	⇒	62万円/月 未達 752万円/年
	… 【農園】感染対策型の安心安全な収穫体験を提供する。目標売上750万円/年(ハウス貸切プランのため入場人数が限定された。来季値上げで対応)	⇒	935万円/年 達成
	… 【受託作業】不備率を減らし効率を上げ完成率を上げる。目標売上240万円/年、20万円/月	⇒	27万円/月 達成 332万円/月
	… 【焼き芋自販機】4台合計目標売上129万円/年	⇒	47万円/月 未達 568万円/年
平均工賃は、工賃総額3,166,800円/支払人数377人(定員で計算すると10,995円、支払い人数が多いため)			⇒ 平均工賃8,400円 未達
⑥「その他」			
新規事業	… 鴻巣・北本地区に障害者グループホーム(共同生活援助)を開設する	⇒	北本市内候補地農転待ち
⑦報告事項			
… 1.焼き芋自販機、そごう横浜店、西武東戸塚S.C. 令和4年5月31日撤去。 2.11月17日～20日 渋谷キャストにて「綾鷹カフェ&焼き芋自販機コラボイベント」に焼き芋自販機貸出。 3.元気ファームのいちご栽培において、2品種から3品種へ変更(総数変更無)。ハウス分割貸切予約制継続。 じゃらん遊び体験予約サイトにて「いちご狩り施設リポート率グランプリ2021年度敢闘賞」受賞			

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
移行支援	R3実績	70.5	66.7	64.5	55.0	65.2	68.0	42.4	45.5	46.0	56.8	61.1	49.1	57.6%
	R4目標	60.0	60.0	70.0	70.0	80.0	80.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	80.0%
	R4実績	46.0	50.0	44.5	40.5	45.9	52.0	53.0	43.8	44.0	40.5	52.6	54.1	47.2%
継続B型	R3実績	105.8	106.9	99.8	98.1	94.6	87.9	95.6	99.2	97.1	91.9	88.0	90.9	96.3%
	R4目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0%
	R4実績	91.5	93.2	103.8	99.0	89.2	99.0	94.8	92.9	90.4	89.3	86.8	90.2	93.3%
総合	R3実績	95.4	95.1	89.4	85.4	86.0	82.1	80.0	83.4	82.1	81.6	80.1	78.6	84.9%
	R4目標	79.0	79.0	84.0	84.0	89.0	89.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	89.0%
	R4実績	78.1	80.5	86.4	81.8	76.5	85.1	82.5	78.4	76.8	74.9	76.8	79.5	79.8%

令和4年度
第29期
事業報告書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日



社会福祉法人 元気村
栗橋翔裕園 ケアハウス栗橋翔裕園

令和4年度 栗橋翔裕園 事業報告

施設基本方針

利用者と地域と職員と…つながりながらの総合力アップ
歴史ある先進的な介護施設を目指して

施設年度目標

- ・地域に出向き、繋がりを得て、利用者や職員を確保する。
- ・入院者ゼロを目指し、目標稼働を達成する。
- ・施設の内装、設備をリニューアルし、利用者と職員の安全と快適性を得る。

重点項目に対する実績報告

- ①「差別化/付加価値をどのようなものをどのように作っていくか」
- ・利用者の体調不良や入院などを最小限にする。業務効率化の一環として、毎日の記録業務にかかる時間を15%短縮する。
⇒嘱託医の変更により、施設にすぐに医療の手が入る環境となる。そのため、早期対応ができかつ、早期発見もできている状況で令和3年度に比べ入院者数を延べ2608人から延べ791人に減少させることができた。(約70%減)
 - ・業務効率化の一環として、毎日の記録業務に係る時間を15%短縮する。
⇒下半期にて、記録の見直しの実施を行う。まだ、慣れていない部分があるため、短縮までではできていないが、必要・不要部分の仕訳を実施。
- ②「組織力の強化」
- ・ES調査満足度60%達成
⇒特養55.1%、ケアハウス59.1%と未達。令和5年度にて、サンクスカードを実施する準備を下期にて計画を実施。
 - ・全職員に対して理念浸透を強化していく。
⇒上期に実践編(対ご利用者前半)を実施するが、コロナのため、中断。下期(1月、2月)にて、理解編から再スタートを行い、120名の職員が再履修。3月には実践編(対ご利用者前半)の再開。95%終了。
 - ・法人職員押しのステップアップを促進するために、各職員の配置転換と移動を定期で行う
⇒主任1名、副主任4名の任命の実施。内部の異動はできなかったが、9月より本部、他施設からの出向にて新たな環境構築を実施。
- ③「採用力の強化(面接力やマーケティング力含む)」
- ・外部発信で、施設日記やInstagramなどのSNSへの投稿を最低1週間に3回以上行う。フォロワー数1000人を目指す。
⇒栗橋翔裕園らしい楽しい雰囲気を伝える投稿を継続。令和5年3月末時点でフォロワー900人突破。
 - ・地域への情報配信と交流を月に1回以上行う。
⇒6月、1月に地元の神社へリモート散歩イベントの実施。地域の様子をご利用者にお届けする。
また、2月に地域の避難訓練に参加し、地域の方々と交流を実施。
- ④「生産性の向上(人員配置基準の中で人件費やシフトをどのようにコントロールするのか)」
- ・IT/ICT化の推進。見守りセンサーの稼働と活用し業務効率化を図る。
⇒下期にて、PCの入れ替えの実施。2月には見守りライブを特養100床。全台設置。年度をまたぎながら、ナースコールの入れ替えからスマートフォンの導入にて、ナースコール・センサーの受信端末の統一の実施。
今後は、これらの機器を活用し、オペレーションの変更にてより生産性を上げていく。
 - ・時間外勤務50%削減
⇒全体としては、ほぼ例年と変わらず。しかし、夜勤明けの残業を減らすために、明けの職員が視覚でも分かるビブスの着用を行い、他者からも退勤の声掛けを行えるように工夫する。
現在では、夜勤明けは定時での退勤がほぼできている。
- ⑤「収益力向上」
- ・入院者の減少。1日あたり3名以下。
⇒2022年4月より嘱託医を変更。在宅クリニックの医師にすることで、入院者が減少。年間で791名。1日平均では2.2名と目標達成。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R3 実績	93.1	86.9	87.7	90.3	91.3	89.0	92.7	89.4	94.4	85.8	81.1	91.0	89.4%
	R4 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0%
	R4 実績	96.0	93.9	91.4	92.8	94.7	95.2	95.1	95.2	94.1	95.7	96.2	96.9	94.8%
短期	R3 実績	84.0	88.4	100.0	99.7	124.2	111.0	102.3	106.0	103.2	83.5	83.6	110.0	99.7%
	R4 実績	110.3	124.5	124.5	117.4	127.7	96.0	105.1	105.0	109.0	117.7	123.9	116.4	114.8%
通所	R3 実績	94.9	91.2	91.1	91.5	92.1	92.5	91.0	92.3	91.4	80.2	79.4	85.1	89.4%
	R4 目標	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0%
	R4 実績	88.8	90.3	90.3	93.1	88.3	94.6	91.9	87.9	88.2	86.9	88.1	90.3	89.9%
軽費	R3 実績	92.8	98.2	99.5	95.7	96.0	95.0	89.9	90.6	92.6	88.4	93.3	97.0	94.1%
	R4 目標	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5%
	R4 実績	93.3	97.7	97.7	93.7	96.2	95.7	92.2	93.2	95.8	89.3	90.0	93.7	94.0%
訪問 (件数)	R3 実績	249	270	263	273	249	291	285	271	264	201	200	240	254.7件
	R4 目標	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280.0件
	R4 実績	279	270	278	315	360	331	298	315	312	317	349	297	310.1件
居宅 (件数)	R3 実績	111	105	113	106	106	104	105	105	110	113	108	110	108.0件
	R4 目標	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110.0件
	R4 実績	112	115	114	115	113	118	120	123	117	118	120	116	116.8件

令和4年度
第23期
事業報告書

自 令和4年4月 1日
至 令和5年3月 31日



社会福祉法人元気村
栗橋ナーシングホーム翔裕園
栗橋グループホーム翔裕園

令和4年度 栗橋ナーシングホーム翔裕園 事業報告

施設基本方針

住み慣れた地域で自分らしい暮らしの継続

施設年度目標

- ・自分が自分のフロアで暮らしたいと思えるように、ご利用者の喜びと生き甲斐を叶えていく。
- ・職員一人ひとりの成長とリーダーの育成。良き先輩を育て役割分担・役割責任を明確して他部署と「つながる つなげる」を実現する

重点項目に対する実績報告

①「差別化/付加価値をどのようなものをどのように作っていくか」

・歯科衛生士が主体となってご利用者に口腔ケアを指導。また本人に合った歯ブラシや歯間ブラシを選定して肺炎予防に繋げることで、入院者を減らす。
 ・施設の日常生活や行事風景をInstagramに投稿し、情報を職員間で共有。ご家族や地域に発信することで、楽しい施設と宣伝していく。
 ・GG式転倒予防ケアプログラムを実践し転倒事故による骨折や怪我を減らしていく。また危険察知レベルを個々に判断できるように教育を進める
 昨年度より入院者数は11名減少した。誤嚥性肺炎も予防にもつながった。また歯科医師との連携も取れて治療や不具合にもすぐに対応できた。Instagramの発信が定着できた。地域広報誌を見た地域の自治会長さんが出張講座の申込をして頂き次年度に繋がってきた。点数付の意識は出来た。事故件数は前年度より変わらず減っていないので次年度に持ち越しとなる。

②組織力の強化

・理念浸透による組織力の構築。係長、主任による組織力の再構築。役職者の育成をすることで、組織力の強化を図る。
 ・上長は出来るだけトップダウンを減らす。ポスト職員は、部下からの相談に対しすぐに答えを出さず自分たちで考えさせる。理念浸透講師として同じ職員ではなく違う職員に担当させることで職員同士が理念の重要性を感じる事ができ共有できた。担当職員同士が物事を相談しながら「自ら考える力」を養うことが出来た。職員から様々な提案や挑戦できました。

③「採用力の強化(面接力やマーケティング力含む)」

・キャリアパス制度や入職者に対する研修制度などを導入して、無資格・未経験でも介護を身に付けて就労できる事を発信して獲得を目指す。
 ・高卒新卒採用2名以上を目標とし、活動に必要な採用ツールやInstagramの充実を図ります。解禁前から訪問する学校に訪問をして顔を覚えて頂く。新卒者は高校生2名、大学生3名と計5名の採用が出来た。高校では卒業生と訪問して恩師との対面で施設に特長を述べたりして近況を伝えることができた。

④「生産性の向上(人員配置基準の中で人件費やシフトをどのようにコントロールするのか)」

・Wi-Fi環境を整えてペーパーレス化と、どこでも入力できるようにタブレットからの記録を直接入力で業務改善を行う。
 ・職員一人一人と面談を行い個人評価を行う。評価内容によって適正部署への人事異動や責任者交代を行い生産性を上げる。
 ・間接介護業務の見直し図る事で、機器でカバーできるところは積極的に導入して空いた時間を直接介護業務にあたる時間を増やす。直属の上長が度々面会を行い本人の希望や適性、体力などを考慮して人事異動しました。各部署から責任者を支える副主任の選出ができてフロアを円滑に業務が回るように工夫できました。

⑤「収益力向上」

・加算型老健を維持しつつ、在宅強化型老健移行への体制を整える。在宅復帰率50%を目指す。
 ・施設外広報誌を年間4回発行し地域の方に施設での取り組みを知って頂き知名度をアップさせる。
 ・訪問リハでは一件一件での訪問は時間ロスがあるので有料老人ホームやサ高住のような集合型施設に紹介を受けられないか営業を進める。在宅復帰率が40%台で強化型算定には至らなかった。ただし在宅復帰の試みは継続して声をかけている。介護が必要な方にはご家族向けの介護教室を数回開き基本的な介護方法を行いました。地域向け広報誌は計画通り年四回発行しました。自治会からと地域包括センターからチラシを見て介護教室を開催してほしいと要望があり次年度に実施することになりました。地域の悩みとしては体力の衰えや食事面での不安が聞かれているので解消できるように次年度はフォローしていきます。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
老健	R3 実績	93.5	95.4	95.8	96.7	94.6	92.5	96.3	96.8	96.4	93.4	96.3	96.0	95.3%
	R4 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0%
	R4 実績	98.6	97.2	98.0	96.2	96.2	96.0	95.7	94.4	94.2	93.5	95.4	94.8	95.9%
通所	R3 実績	86.9	88.0	85.0	83.4	86.9	88.8	89.0	88.4	84.8	79.7	85.1	85.0	85.9%
	R4 目標	87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	87.0%
	R4 実績	91.5	93.0	89.7	89.7	87.2	92.7	87.6	89.3	86.9	89.6	94.7	92.5	90.4%
グループホーム	R3 実績	99.6	97.1	94.4	93.1	92.8	94.4	94.4	96.5	94.4	94.4	92.3	90.0	94.5%
	R4 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0%
	R4 実績	83.2	83.2	85.3	87.4	90.7	94.4	92.1	99.8	91.9	90.7	87.3	85.2	89.3%
居室(件数)	R3 実績	103	114	109	114	111	113	108	112	112	110	107	108	110.1件
	R4 目標	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120.0件
	R4 実績	111	109	113	105	108	104	110	112	104	105	107	108	108.0件

令和4年度
第27期
事業報告書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日



社会福祉法人 元気村
蓮田ナーシングホーム翔裕園

令和4年度 蓮田ナーシングホーム翔裕園 事業報告

施設基本方針

「暮らしの連続性」を大切にするサービスの提供

施設年度目標

「困ったときは翔裕園」と地域の方や利用者が頼れる施設になる

重点項目に対する実績報告

①「差別化/付加価値をどのようなものをどのように作っていくか」

・地域へ出向く活動を通じ、地域の方々の「蓮田ナーシングホーム翔裕園」の認知度を高める

→デイケアの取り組みの中で、責任者のみの営業スタイルから人員を3名増員した結果、外部居宅事業所とのパイプがより強化することが出来たことで稼働向上に繋がった。

訪問リハビリテーションや入所・ショートステイなど翔裕園独自のサービスが認識され、稼働率も85%以上を達成することが出来た。

(営業活動の基本となるポスティングも貧困世帯や独居生活を中心に実施したことで、利用に繋がったきっかけとなった)

・認知症ケアセミナーの開催

→2月には認知症ケアプログラムの講座を地域に向けて実施し、介護職員自らが講演を行い、民生委員の方や一般の方々にて好評が得られたきっかけが出来た。来期も同様に6月15日(決定) 2月(予定) 計2回の開催を実施する

・GG式ノーリフティングプログラムの実践

コロナ影響や機械トラブルが相次いだ結果、時間を費やすこととなり、ノーリフティング以外の介護技術を新人教育として指導した在宅介護教室を11月に開催し、地域の方々と介護技術について講演を開催し今後の介護について意見交換ができた

②組織力の強化

・理念浸透研修を実施する

→開始時期は遅れを取ってしまったが、介護課長を中心に役職者以外の職員が講師として学ぶことが出来たことで各部署内にて時間を調整し、講義する場面ができた。

指導する立場、される立場双方を経験することでより大切な気づきを生み出す効果となりスキルアップに繋がった

③採用力の強化・人材育成

・新規特養の開設を見据え、介護職員5名の採用

共生の家に介護職員を5名異動し、採用としてもスムーズに補充が出来た

・GG式新卒育成プログラムの導入と実践

→社会福祉士・介護福祉士・理学療法士・作業療法士等あらゆる実習生を受け入れたことで、

依頼される専門学校なども増加傾向であり来年度の採用人材にも活かす

福祉業界も様々なので、各事業の特色を説明し法人全体で採用に活かしていきたい

④生産性の向上

・入浴スタイルの見直し

→老健として、個別ケアを目的に介護職員がこうのすたんぽろ翔裕園へ研修として招いて頂き、入浴スタイルの見直しが実現出来た各施設の取り組みを参考に、よりケアとして適した業務の見直しを違う角度から学ぶことが出来た。令和5年度も継続し実施していく

⑤収益力向上

・在宅強化加算の算定及び上位リハビリ加算の算定

コロナクラスターや施設長の相次ぐ入れ替わりの中、算定要件を落とすことなく実施することが出来た

各部署との報連相がきちんとされたことや日頃の利用者・家族との信頼関係を構築によるもの

訪問リハビリも目標平均を達成(外部居宅事業所や病院からの依頼も増加傾向)

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
老健	R3 実績	97.0	98.0	95.7	94.9	96.1	95.8	95.2	93.0	89.6	90.7	93.0	96.1	94.6%
	R4 目標	93.0	95.0	96.0	94.0	94.0	95.0	96.0	96.0	95.0	95.0	96.0	95.0	95.0%
	R4 実績	95.5	93.6	95.7	93.9	96.5	96.2	93.0	94.8	91.6	91.3	97.4	96.7	94.7%
通所	R3 実績	84.1	84.6	83.0	86.4	84.5	87.5	89.0	87.5	84.4	70.8	70.4	82.1	82.9%
	R4 目標	86.0	90.0	90.0	89.0	89.0	89.0	92.0	91.0	89.0	86.0	85.0	92.0	89.0%
	R4 実績	80.5	85.4	87.8	86.7	67.2	77.9	85.4	89.9	85.9	85.0	85.9	88.0	83.8%
居宅 (件数)	R3 実績	190.0	195.5	202.5	207.0	215.0	208.5	214.0	212.0	213.5	207.5	204.5	202.0	206.0件
	R4 目標	192.0	191.0	190.5	192.5	192.0	194.0	195.0	195.0	194.5	194.5	193.0	193.0	193.1件
	R4 実績	207.0	205.0	211.0	204.0	193.0	203.0	202.0	193.0	199.0	189.0	204.0	211.0	201.8件
訪リハ (件数)	R3 実績	6.0	22.0	36.0	50.0	52.0	68.0	76.0	94.0	122.0	70.0	84.0	54.0	61.2件
	R4 目標	90.0	100.0	110.0	120.0	110.0	120.0	130.0	138.0	130.0	138.0	146.0	146.0	123.2件
	R4 実績	90.0	116.0	146.0	168.0	110.0	94.0	166.0	166.0	156.0	74.0	136.0	172.0	132.8件

令和4年度
第14期
事業報告書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日



社会福祉法人元気村

かわぐち翔裕園

令和4年度 かわぐち翔裕園 事業報告

施設基本方針

「その人らしい暮らしの実現」
 ～新たな介護ケア現場を見据えた変化を恐れない実施～

施設年度目標

- ・新規ドクターと連携を取り、看取り者の自分らしく最後を迎えられるケアの実施
- ・各フロア単位でのシフト管理体制による人員配置の見直し
- ・機器導入による安全な生活の確保、統一した職員ケアの確立
- ・自治体との関わりによる未曾有の災害に備えた取り組み

重点項目に対する実績報告

○年間平均稼働率

特養 96.0% (目標比-1.7%、前年度比-1.3%) 短期 106.6% (目標比+5.0%、前年度比+5.0%)
 通所 83.5% (目標比-3.9%、前年度比-0.2%) 居宅 84.9% (目標比+0.9%、前年度比+5.6%)

①「差別化/付加価値をどのようなものをどのように作っていくか」

- ・特養: 個別機能訓練加算継続して算定できており定期的にリハビリ会議による情報交換実施。他職種共同での評価不足あるため入居者の満足向上、職員のやりがいにつなげていける方向性の確立が必要。
- ・通所: 個別レクに重点をおき実施。利用要望、自宅できている事の把握をしたうえで安全に自由に動ける環境整備もできている。リハビリ職員定着課題もあるため部署の垣根を超えた連携の課題もある。

②「組織力の強化」

- ・担当講師による理念研修実施により責任感が芽生え、自然にクレドが発信できている様子が見えてきている。
- ・役職育成を目的に実施し、主任、副主任に関しては成長できているがリーダー育成が進んでいない現状も見られる。主任や副主任に頼ってしまう傾向が見られるためリーダーのみの会議(月1回)や話し合いの場を設けることで自身で考えて行動できる判断を養えるよう取り組み、定期的にオブザーバー的に管理者も参加することで確認実施。
- ・A-Eyes Helper(AIカメラ)導入後の同類事故件数(対象者20名: R3年度18件(全事故件数66件)、R4年度4件(全事故件数30件))居室内でもトイレ内、リビングでの転倒事故が8割を占めており、他介助に入っただけの見守りでできていない状況である。カメラ導入後のカンファレンス予防策での削減も結果として現れている。

③「採用力の強化(面接力やマーケティング力含む)」

- ・ハローワークの定期的な訪問や施設写真更新により昨年度5名を上回る6名採用につなげることができた(職員充足のため2名の問い合わせ断る)。離職率11%であったが、紹介派遣手数料を掛けない目標は達成できたが、産休等で夜勤体制の補充ができず派遣職員0名にすることはできなかった(現在1名)。
- ・クロスシフト実施によるユニット職員一人にかかる負担軽減はフロア間でのヘルプ体制がスムーズにできる結果となった。

④「生産性の向上(人員配置基準の中で人件費やシフトをどのようにコントロールするか)」

- ・各ユニットリーダーのシフト管理をフロアごとの副主任が担当することで充足する部分での把握ができ、残業時間500時間/月から350時間まで削減。フロアごとのクロスシフトの影響もあり、職員感染による職員不足時のヘルプ体制にもプラス効果がでた。
- ・AI-Helper(AIカメラ)による職員の動線や動きの把握を同時進行で実施することで時間管理の把握予定であったが人員配置までの取り組みにまで活用するまでには至っていない現状である。

⑤「収益力向上」

【特養】個別機能訓練加算算定のため機能訓練士の配置換えにより4月より算定開始(増収400万/年)。特養にリハ職が配属されたことによる介護職員による生活リハビリが実施できADL維持、向上につなげ、職員の意識向上につながっている。

【短期】特養での入院者を見込んでの相談員同士の情報交換により稼働率106.6%を達成することができた。ベランダから庭への自由な出入りはを検討していたが避難経路等で柵の作成ができないなどの問題が出てきてはいるが消防署に相談を行い、改善案あり。今年度は実施できなかったが、次年度に継続して生活活動量の増加した生活領域拡大を進めていく。

【通所】機能訓練士に関わらず、運動指導員による体操も定着、デイサービス内での平行棒設置による個人に合わせた活動は、周りからも見えるため自分自身で率先して参加されている方も増えてきている。機器の配置や専門職以外にもできる業務を改善することで、利用者の楽しみ、過ごし方の変化も見られる。キッチンカーは、一人では買えなかった物が、仲間同士で気軽に購入できる楽しみも増えています。

【居宅】特定事業所加算算定のためケアマネ増員を10月予定で動いていたが、9月の感染症の影響で特養職員補充のため居宅配属予定の職員の異動が10月になってしまい、加算算定開始が11月となってしまった。登録者数も今年度中に100名を目指してしたが95名と未達成であった。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R3 実績	95.1	97.9	95.7	96.5	97.3	97.7	99.8	98.3	98.1	98.3	98.0	95.0	97.3%
	R4 目標	97.5	97.5	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	97.0	97.0	97.5	97.7%
	R4 実績	93.8	94.3	94.2	95.9	95.4	94.6	97.9	96.2	97.9	97.9	97.9	96.3	96.0%
短期	R3 実績	108.0	101.6	100.0	106.1	105.5	101.3	101.0	103.3	102.9	99.7	100.0	90.0	101.6%
	R4 目標	101.5	101.5	101.5	101.5	101.5	101.5	101.5	101.5	101.5	102.0	102.0	101.5	101.6%
	R4 実績	96.6	109.6	112.0	114.2	112.6	106.6	101.2	104.0	104.8	99.0	106.7	112.2	106.6%
通所	R3 実績	85.5	85.5	85.5	85.0	85.2	87.9	93.4	91.3	85.6	88.8	66.0	65.0	83.7%
	R4 目標	86.0	86.0	87.5	87.5	86.5	87.5	89.0	89.0	87.5	87.5	87.5	87.5	87.4%
	R4 実績	85.2	82.0	81.5	74.1	82.6	86.5	90.0	86.5	83.1	80.2	84.8	85.2	83.5%
居宅 (件数)	R3 実績	80.0	80.5	79.5	80.0	78.5	81.0	81.5	77.5	78.0	76.5	79.5	79.0	79.3件
	R4 目標	79.0	79.0	79.0	79.0	79.0	80.0	80.0	85.0	85.0	90.0	90.0	100.0	83.8件
	R4 実績	74.5	74.5	79.0	81.5	79.5	77.5	87.5	94.5	88.0	94.0	94.0	94.0	84.9件

令和 4 年度
第 5 期
事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 31 日



社会福祉法人 元気村

しょうぶ翔裕園

令和4年度 しょうぶ翔裕園 事業報告

施設基本方針

5K。希望、期待、感謝、感動、研究。やりたいことが実現できる施設へ。

施設年度目標

入所、通所とも年間稼働・収支目標を達成。職員、利用者の「やりたいこと」に挑戦する。全ユニット業務内容の見える化と整理を実施。機器・テクノロジーの活用を通じた生産性向上により、その方らしい生き方を実現するサービスの提供。安心して暮らせる地域づくりの支援。介護の魅力を伝える活動実施。

重点項目に対する実績報告

○特養 年間平均稼働率96.4%(目標96.0%、対目標比+0.4%、対前年比+0.7%)
年間通じて入院者100人/月 以下を目標とし、実績103.1人。年の6月間100人以下とし、50人/月となる月もあり、口腔衛生管理加算の取得による口腔ケアへの意識の向上、口腔体操の実施と体調管理に取り組むことができている。秋冬の平均130名と、気候の変化に合わせた健康維持を次年度以降も取り組んでいく。

○通所 年間平均稼働率88.7%(目標83.2%、対目標比+5.5%、対前年比+32.6%)
ケアマネージャへ実績報告とご利用者のADLをまとめた心身の状態報告をそれぞれ分けて訪問。月に2度対面で伝えることで信頼関係が向上。半日、個別・選択リハビリに加えて、週1回以上のイベント開催とそれらを通じて人と交流する「通う楽しみ」が当事業所の特徴であることが地域内に浸透し、紹介も増加。サービス提供に必要なリハビリ、介護職員が年間通じて配置できたことで、サービスの質、量が安定したこともあり目標稼働を達成。感染症明けの翌月に即90%超の稼働に戻るなど、年間通じて90%以上の利用率となるサービス基盤ができた。

①差別化

プレイケア「遊びの気づき」によるご利用者の満足と健康の維持向上は感染症により各種活動停滞し令和5年度へ持ち越し。趣味や遊びの中に個別のリハビリ要素を加えた活動を介護課・リハビリ課合同で計画し再挑戦とします。健康維持・入院者数減少100人以下を年度目標とし、実績103.1人/月。個別に口腔衛生管理加算を算定し、口腔ケアへの意識を向上する取り組みを実施。年のうち6月間100人以下を達成し、最小50名。10月～1月の秋冬平均130人超。気候が関連する健康管理を次年度以降意識し取り組む。地域との協力を施設の役割とし、小学校の下校時見守り隊の継続。久喜市内で活動する子ども食堂の団体と協力し1月1回の施設開催の開始。小学校と協同し認知症、福祉車両体験授業。中学校、施設専門職の役割説明授業実施。通所C事業、介護予防教室の受託実施。これまでのかわりより次年度オレンジカフェの開催、介護者の相談会や介護教室の実施を依頼されており、受託予定。

②組織力の強化

理念研修理解編について、主任以上が講師となり計画実施。実践編「対 ご利用者」も年間計画を作成し実施。全職員対象に現在も浸透研修を実施しており、理念伝達ができる指導職が育成ができています。ES調査において前年比で理念浸透+8.6%、仕事への誇り+4%、やりがいを持って働ける環境+5.1% それぞれ向上。

③採用力の強化

採用経費のうち、紹介手数料200万円未満を目標とし、実績260万。看護師採用手数料が主な要因。職員紹介3名あり。令和4年度新卒採用2名についてOJT、資格取得支援を活用し技術知識講習の受講支援。リーダー候補として育成。新卒採用向けの見学会会場として受け入れ実施。直近の先輩、上司となる主任以上の座談会の開催に職員が出席。令和5年度の施設採用4名。他ブロック内施設採用につながる活動を実施。

④生産性の向上

技能実習生2名受入れ、海外人材が活躍できる場となるよう、業務のスケジュール、内容マニュアルの見直し作成。全体として働きやすい環境づくりにつながる。個人浴槽用入浴リフト導入。心身の負担軽減とトータルの業務時間効率の改善となる。朝礼は全館オンライン実施とし定着。集合する時間カットし見守りや急な対応ができる時間となる。有休取得、委員会開催については感染対応などの特殊な環境もあり改善は次年度も継続し取り組みます。

⑤収益率向上

看取り、科学的介護関連加算の算定を継続できており予定の加算は取得。入所は食を楽しむレクリエーションをメインに計画通り月1回実施し。通所は週1回～2回のイベントを継続し、リハビリ+通う楽しみを提供するデイとして稼働90%以上となる。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R3 実績	94.7	95.9	96.0	96.3	95.6	94.0	93.6	95.7	94.9	95.8	95.0	95.5	95.3%
	R4 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0%
	R4 実績	96.8	98.3	98.4	98.4	97.1	95.8	93.4	95.8	95.7	96.0	96.5	94.7	96.4%
通所	R3 実績	47.0	45.7	41.3	47.5	48.4	48.4	57.8	62.2	68.9	69.0	66.0	71.0	56.1%
	R4 目標	75.0	78.0	80.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	83.2%
	R4 実績	85.7	87.7	91.5	79.7	76.0	92.7	96.2	94.8	90.2	89.3	93.8	87.0	88.7%

令和 4 年度
第 27 期
事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1日
至 令和 5 年 3 月 31日



社会福祉法人 元気村
国見ナーシングホーム翔裕園

令和4年度 国見ナーシングホーム翔裕園 事業報告

施設基本方針

利用者の想いに応え、感動介護を実現する施設を目指す。

施設年度目標

- ・職員クレドの理解と実践にて価値観を共有し、チームワークを高めどんな事態にも揺るがない磐石な組織を作る。
- ・共に働く職員同士、いつも笑顔で家族と同様の想いで接し、ありふれた日常を特別な日に変えられる力を身に付ける。
- ・地域との関りを密にし、地域高齢を守るプラットホームを目指す。

重点項目に対する実績報告

【全体】

・新型コロナのクラスターを経験し、稼働率もマイナススタートとなったが、全事業、数値面では前年度を超える結果となった。クラスターを経験したことで、職員間の団結力も強くなり、組織として一つレベルが上がっている。職員クレドが十分に理解・共有しきれていない部分はあるが、ご利用者の生きがいを叶えようとする動きがみられ、コロナの制限下でも、如何にご利用者が喜び、楽しんで頂けるかを、今まで以上に考えるようになっていく。

・地域との関わりにおいて

参加された方が当園のサービスに興味を持ち、利用の相談が寄せられるなど、地域の中で求められる存在になっているのを実感している。

・東北福祉大学と仙台市の認知症対策推進協定の一環で開催されている、「認知症カフェ」へ2ヶ月に1回 専門職枠で参加。地域との交流を大切にできた。

・国見あおば翔裕園とベッド状況やご利用者の状況を共有する取り組みを開始する事で、満床時や老健施設とミスマッチな状況の方に対して提案し

国見NH翔裕園と国見あおば翔裕園が1つのチームとしてご利用者の生活を支えるようになっていく。

①「差別化/付加価値をどのようなものをどのように作っていくか」

・GG式自立支援プログラムの実践により、根拠を持ったケアの提供、GG式認知症ケアプログラムの浸透により、ご利用者に声を掛ける前に、視界に入らなくて優しい笑顔で手を振る行為が自然とみられるようになった。どちらのプログラムも浸透と実践にはまだ課題が多く残っているがくにみ式包括ケアシステムの基盤となりつつある。次年度は、職員クレドと業務をつなげ、現場で実践しているケアを充実させ、くにみ式包括ケアシステムの発展に努めていく。

②組織力の強化

・理念浸透研修が具体的な行動の推進力となっていることは実感しているが、浸透度はまだ低い職員もいた。次年度は実践編の研修を推し進めることでより深く、広く浸透させていくことが課題。

・指導内容は統一し一貫した人材育成を行うことと、指導者が寄り添うことを実践することで、職員間でのコミュニケーションが積極的に取れ良好な関係が築かれるようになっていく。

③採用力の強化

・通所リハでSNS投稿の基盤づくりと要領を得て理解を深めることができたため、引き続きこのノウハウを入所や訪問リハ等すべての事業所に横展開し次年度は施設としての発信を拡充していく

・近隣ではコロナ禍により介護実習の受け入れを拒否しているなか、当施設では介護福祉士養成校3校より14名の実習生を受け入れることで、生徒の皆さんには実地研修の大切さを感じてもらおうと同時に、介護の仕事に深く興味を持ってもらう機会となった。このことにより、学校との関係性もより深まり効果的な採用活動の一環になりえると実感した。

④生産性の向上

・インカムを使い特に入浴介助では職員間の連絡、情報の共有が円滑に図れることにより、効率的に業務が遂行され時間外の削減につながっている。又、申し送りにおける時間外削減の取り組みとして、時間帯の見直しや手段を変更し削減につなげている。新年度はさらに時間外の30%削減を目指して体制構築に努める。

・アプリ(ラインワークス)の活用を浸透させることにより、業務連絡等の伝達や緊急時の報告及び指示出しが即時に行えることで、効果的な業務遂行につながり対処までの時間短縮により、業務の生産性が得られた

⑤収益力向上

新規加算の算定を実現し、年間1,490,564円の増収を図ることができた

【内訳】

・8月より科学的介護推進体制加算の算定開始にて、入所は年間318,777円の増収、通所は年間245,025円の増収

・9月より(入所)認知症短期集中リハビリテーション算定開始にて年間926,762円の増収

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
老健	R3 実績	98.1	98.3	98.5	98.2	98.6	97.4	95.3	97.0	98.6	97.4	88.2	92.2	96.5%
	R4 目標	97.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	97.9%
	R4 実績	97.5	97.5	96.2	95.2	95.5	95.3	96.2	97.9	96.4	95.0	95.7	93.9	96.0%
通所	R3 実績	70.1	69.8	73.4	74.5	77.0	77.3	79.6	77.6	85.9	56.2	0.0	54.8	66.4%
	R4 目標	80.0	82.6	85.2	87.9	87.1	90.5	90.5	90.5	90.0	90.0	90.0	89.9	87.9%
	R4 実績	73.7	74.8	75.5	78.0	76.3	77.7	85.6	89.6	91.4	86.2	88.5	92.0	82.4%
訪問リハ (件数)	R3 実績	80.3	69.7	62.1	66.7	62.1	63.6	84.1	80.3	86.7	78.6	23.3	72.2	69.1件
	R4 目標	75.0	80.7	79.5	82.0	85.9	88.6	90.5	95.5	95.2	95.0	95.0	95.0	88.2件
	R4 実績	81.8	75.0	76.1	90.5	78.3	88.2	100.0	99.1	96.4	98.0	107.0	92.2	90.2件
居宅 (件数)	R3 実績	56.0	56.5	62.0	55.0	56.5	59.0	66.0	60.0	63.5	66.0	67.5	65.0	61.1件
	R4 目標	64.5	66.5	68.5	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	69.1件
	R4 実績	64.5	64.0	64.0	72.0	63.0	61.0	63.5	63.5	62.0	60.5	59.0	56.0	62.8件

令和 4 年度
第 18 期
事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 31 日



社会福祉法人 元気村
仙台市亀岡老人福祉センター

令和 4 年度
第 7 期
事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 31 日



社会福祉法人 元気村

国見あおば翔裕園

令和4年度 国見あおば翔裕園 事業報告

施設基本方針

『Go forward』 ～前を向いて進もう～

施設年度目標

1. 短期年間稼働96%確保
2. 看多機年間平均登録23名
3. 個々の目標必達。個々の能力を高め、チーム力アップ

重点項目に対する実績報告

I 差別化・付加価値について

- ・国見NH翔裕園通所リハ利用の方の新規利用の際のリハビリ職員の担当者会議の参加と自宅状況の確認を実施。個別機能訓練加算は毎月240件を継続できた。
- ・医療保険請求者2名、癌末利用者3名受け入れ、医療重度者への対応ができた。

II 組織力強化・理念浸透

- ・中途採用者には入職時研修で理念、クレド研修実施。役職者は評価者研修受講、一般職員はコンパス研修受講3名実施。
- ・ビジネスチャットは全体・事業所・委員会等細分化し情報をタイムリーに共有し、個別での相談・連絡に活用している。情報伝達のスピードアップにより、行動も早くなり行事や委員会活動の効率化を図ることができた。
- ・チャットでのやり取りは常にできたが、役職者の方針や考えが現場職員に理解されない場面が多く、ES調査での結果も芳しくなかった。

III 採用力強化

- ・紹介会社と常に連絡を取り合い、必要とする人材について情報提供を行った。
- ・訪看実習生、10名を受け入れ、実習先の学校からも指導において高評価を得た。未来の看護職員として制度や法人紹介を行った。
- ・国見NHとの合同面接(4件)を行った。(株)LITALICOと連携し障がい者雇用に取り組んだがLITALICO経由からは雇用できず。紹介会社経由で1名障がい者雇用できた。

IV 生産性向上

- ・チャットでの連絡は継続した。2度の大きな地震の際には、緊急招集により夜間帯にもかかわらず大きな事故もなく対応できた。
- ・関係性が築けている2件の居宅に対し、LINEにてSS空き情報をタイムリーに共有し緊急利用者の受け入れをおこなった。、連絡調整の効率化を図ることができた。
- ・ケアパレット活用、褥瘡やリハ様子など、画像、動画を活用した情報の共有により、申し送り時間の短縮に繋がった。

V 収益力向上

- ・短期稼働実績 90.2% 目標比-5.8% 目標未達。
- ・看多機稼働実績 96.0% 目標比-9.2% 目標未達。
- ・短期稼働目標達成できず。仙台市内中心部は特養も空床がある状態となっており、ロング利用のニーズの減少から空床期間が長くなっている。空床情報のタイムリーな共有。リハビリ希望者の取り込みを念頭に営業を実施した。
- ・短期個別機能訓練加算算定、月240件は全月で達成できた。
- ・看多機、看多機目標稼働未達。通い枠過多により、新規登録受け入れできていない。今後も継続したサービス調整と訪問中心のご利用者獲得に向け営業を実施していくと共に、包括、看多機協議会主催の研修会等で利用方法についても説明を行っていく。
- ・国見NHとの居宅連携により老健待機者のSS利用や老健退所後の在宅生活フォローで利用いただけた。老健リピート利用2名の定期利用もあり、国見施設群として連携したサービス提供ができた。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
ショート	R3 実績	96.8	94.2	92.6	94.5	94.6	91.1	91.8	100.4	101.6	96.5	97.4	97.2	95.7%
	R4 目標	96.5	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	96.0	96.0	97.0	97.0	97.0	97.0	96.0%
	R4 実績	94.6	89.6	85.2	94.9	97.1	94.2	96.0	90.1	90.0	72.8	85.9	91.5	90.2%
看多機	R3 実績	94.1	94.4	92.0	90.5	85.0	87.9	90.1	86.1	84.0	86.9	88.0	81.9	88.4%
	R4 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0%
	R4 実績	81.5	84.5	84.6	85.1	91.7	88.2	88.0	92.2	88.6	87.8	81.0	88.0	86.8%
訪看	R3 実績	8.0	10.0	9.0	10.0	10.0	9.0	10.0	11.0	8.0	0.0	0.0	0.0	7.1件
	R4 目標	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0件
	R4 実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	4.0	8.0	8.0	8.0	8.0	3.3件

令和 4 年度
第 19 期
事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 31 日



イルミネーション大賞2022



『翔裕園の日』



『秋まつり』

社会福祉法人 元気村

南方ナーシングホーム翔裕園／南方グループホーム翔裕園

令和4年度 南方ナーシングホーム翔裕園 事業報告

施設基本方針	
組織改革によりひとり一人の活躍の場を広げ、組織力を発揮する ～何事にもチャレンジする飛躍の年～	
施設年度目標	
①法人理念の浸透研修を行う(compass研修3種類のプログラムで目的意識統一) ②海外人財の受け入れ態勢の確立(職員宿舍完成、技能実習受け入れ範囲広げ東北に波及する) ③新卒・中途採用ルートをつくる(ハイブリッド実習で地元高校、セラピスト養成校、介護福祉士養成校のルート確立)	
重点項目と方策	
①差別化/付加価値 ・入所者数110名、退所者数108名(在宅復帰24名、入院退所56名、他施設入所18名、永眠9名) 在宅強化型再算定に向けて月1回会議開催、他課と情報共有を行いながら入退所調整を行うも入院退所者数が退所者数の半数以上となった。また、コロナ感染による受け入れ制限で予定していた入所が延期となり、在宅復帰率やベッド回転率の安定を図ることができなかった。また、充実したリハビリ(週3回)は10月から人員 ・退所前訪問指導は18件実施。専門職が行うことにより(OT、PT、担当CM)、在宅復帰に向けての支援をケアプランに反映し、他課と協力をし在宅復帰が円滑に行っている。また、R4システム導入し、ケアプランの個別化を行う事によりカンファレンスの取り組みや持ち方を見直し、日常生活の支援を意識し、維持、向上、低下を具体的に評価できる状況下で多職種連携強化を図り在宅復帰支援を行った。 ・ケアニン上映開催に際し、登米市内外の居宅、病院、施設へチラシを配布。登米産業高校にてケアニン上映会実施(福祉課1年生21名参加)の他、居宅ケアマネや当施設職員10名視聴し今年度4回の上映終了。 ・デイケアでは他事業所と差別化を図る為、午後の活動に個別活動と生活リハビリを取り入れ職員、利用者によりリハビリ施設の意識付けが出来てきている。更に自立支援の意識化を図る為、セラピストから指導の時間を設け、利用者のニーズの理解、個別活動の見直しを行える体制ができた。 目標に沿った支援を行い利用者にも活動が定着し目標達成者2名がデイケアを卒業、内1名は非常勤雇用が実現した。	
②組織力の強化 ・組織変更として、事業推進課、営業推進課を設立。インスタの立ち上げ、施設日誌の充実、特化した海外人財の受け入れ、営業、PR活動を行っている。 ・新人、中途採用者には、南方オリジナルの研修、虐待の目チェックを入職日より2日以内で実施し、その後ジョブドレー(入職時研修、基礎研修、理念、認知症ケアプログラム、等級研修)を実施後業務移行への体制が取れている。オリジナルの研修内容は見直しを行い、新年度入職者へは新しい内容で行うよう準備行えた。 ・compass研修【理解】については在籍職員に関しては全て終了している。中途職員に関してはその都度、教育研修委員会が研修を実施し受講して頂く体制を取っている。【実践編「ご利用者前半」】に関しては主任以上が講師として11/8時点で全職員が受講終了している。11月中旬より【実践編「ご利用者後半」】の主任以上の講師研修を実施。対象責任者全て終了。3月より再開し、令和5年度4月、5月に【実践編「ご利用者後半」】を実施していく計画。	
③採用力の強化 ・コロナ禍の状況に合わせ介護実習の受け入れを実施。登米産業高校、老健では1年生、2年生、3年生の見学実習、迫桜高校、デイで2年生1名の介護実習受け入れ行っている。また、介護実習代替授業として、移乗介助(ノーリフティングポリシー)について出前授業を行った。 ・アルバイト3名(高校生介護補助)の雇用を行っている。 24卒者は1名を内定しており、入職に向けての施設・寮の見学を実施し、入職に繋がった。 ・TBC東北放送にて「みやぎ介護人材を育む取り組み宣言認証制度」の第一認証施設として8月に南方NH、GH合同でTVCM放送を実施した。	
④生産性の向上 ・ベッドセンサー10台の増大を行い、夜勤者の業務効率化、負担軽減が図れ、利用者の事故件数軽減が見られていることから、 安眠、安心、安全の提供が出来ている。今後も別業者も含め高性能機器の導入も視野に徐々に増大していく。	
⑤収益力向上 ・6月13日インスタグラム開設。フォロワー数350。投稿数118。施設行事の他、空床ベッド等のお知らせをアップし営業ツールの一つとして活用。2月より、まちなび開始(YouTube配信、冊子掲載、施設紹介カード作成・配布)利用者家族(130部)、圏域事業所や病院、施設内等に設置して施設PRを行っている。新規利用希望者にも配布し施設周知を図っている。3月にモニター購入し対面会再開と同時に施設PR動画を配信できるよう準備中。販促品を作成し入所・デイ相談員、併設居宅ケアマネにも声掛けをして営業時や会議時に持参継続し市内外居宅ケアマネや病院相談員へ配布している。 ・訪問リハ4月より午前中枠を作り事業拡大を図り、利用者獲得を目的に営業活動を行った。多くの利用者が利用できるようになった。 営業活動では、新しくチラシの作成し、リニューアルしたコンセプトの説明を直接行った。また、持ち運び可能なパワープレートを購入したため、営業ツールとして活用した。長期入所予定(越冬)と寒さからの体調不良を見越して新規2名獲得を目標に営業活動の強化と訪問時の体調確認と助言・ケアマネや訪問看護との連携強化 ・デイケア新規28名、登録者着地68名、目標の75名に達成できず。新規28名となった。次年度の営業について継続的に生活リハビリとその成果の営業チラシを発信し、地域包括支援センターや居宅介護事業者に対面して説明し営業活動を行っていく。市内だけではなく市外に営業範囲を広げ新規獲得を目指す。 ・介護福祉士取得、老健1名、デイケア1名、GH2名の取得が行えた。これによりGHでは、サービス提供体制強化加算(I)18単位/日の算定へ移行予定。	
⑥その他 ・登米市介護予防事業へ、介護予防体操の指導・体力測定の手伝いとして参画している。 ・居宅介護支援事業所合同研修会にてケアマネに向けて「高齢者の食事と栄養」について講義を実施。ケアマネと管理栄養士の顔の見える関係作りが出来た。 ・認知症支援委員会の活動の一環にて、包括、長寿介護課担当者と認知症カフェ、認知症サポーター養成講座開催について登米市の現状、 その中での実施に向けた仙台市での活動事例など情報交換を行い、地域の中で翔裕園ができる事を検討し、次年度より実施していく。	

年間数値目標と実績(利用率)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
老健	R3実績	87.0	86.3	90.5	90.0	91.6	88.6	86.0	87.5	91.4	94.1	96.9	92.8	90.2%
	R4目標	93.0	93.0	92.0	92.0	92.0	92.0	93.0	93.0	94.0	94.0	94.0	94.0	93.0%
	R4実績	95.3	94.1	88.3	90.9	88.6	87.3	90.3	92.6	91.7	88.0	86.5	88.2	90.2%
通所	R3実績	85.5	84.4	81.2	85.7	78.6	80.2	85.2	77.2	78.1	85.6	79.3	81.2	81.9%
	R4目標	87.0	87.0	90.0	90.0	90.0	88.0	88.0	88.0	87.0	87.0	87.0	87.0	88.0%
	R4実績	86.9	86.6	85.2	86.9	75.6	85.6	85.3	88.1	85.6	91.2	87.5	86.8	85.9%
訪リハ	R3実績	8.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.1件
	R4目標	7.0	7.0	8.0	8.0	9.0	9.0	10.0	10.0	11.0	12.0	14.0	15.0	10.0件
	R4実績	7.0	7.0	8.0	7.0	6.0	9.0	9.0	9.0	11.0	10.0	10.0	9.0	8.5件
居宅	R3実績	116.0	115.0	113.0	112.0	110.0	106.0	108.0	109.0	107.0	104.0	108.0	112.0	110.0件
	R4目標	114.0	116.0	118.0	120.0	122.0	124.0	126.0	126.0	128.0	128.0	130.0	130.0	123.5件
	R4実績	105.0	113.0	107.0	109.0	103.0	106.0	111.0	108.0	108.0	104.0	98.0	105.0	106.4件
グループホーム	R3実績	100.0	100.0	100.0	100.0	100.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0%
	R4目標	99.0	99.0	97.0	99.0	99.0	98.0	98.0	97.0	97.0	98.0	98.0	98.0	98.1%
	R4実績	100.0	100.0	100.2	100.0	100.0	100.0	100.0	96.9	100.7	100.0	100.0	100.0	99.8%

令和 4 年度
第 15 期
事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1日
至 令和 5 年 3 月 31日



社会福祉法人 元気村
ケアホテルすみさん家

令和4年度 ケアホテルすみさん家 事業報告

施設基本方針
きめ細かなサービスを実施し、地域において1番に選ばれる施設を目指す。
施設年度目標
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が安心・安全に生活し、笑顔あふれるサービスを提供する。 ・職員全員が基本理念を理解し、より良いコミュニケーションを取りながら協力する。
重点項目に対する実績報告
<p>①「差別化/付加価値をどのようなものをどのように作っていくか」 認知症ケアについて、認知症介護実践リーダー研修を受講済みの職員を講師として、3ヶ月に1回の研修を実施し、より専門的な理解を深めています。 また、次年度においては認知症介護実践者研修修了者をリーダー研修にステップアップさせると共に介護職員全員の認知症研修受講を行います。</p> <p>②組織力の強化 職員全員の基本理念の理解が強固になるよう、毎月の全体会議にて確認を繰り返し、また3ヶ月に1回の研修会を実施し浸透を図りました。 日々の申し送りのほか、業務中であっても細かな確認を行うことで意思疎通を図り、随時話し合いを持てる環境を整え職場内でのストレスを溜め込まないよ実践いたしました。。</p> <p>③「採用力の強化(面接力やマーケティング力含む)」 ハローワーク、WEB求人を中心として、また法人本部の協力にて事務職員1名、介護職員2名の採用を行う事ができた。 また、たかのす翔裕園との人事異動を行うなど協力体制を取る事にも取り組んできた。</p> <p>④「生産性の向上(人員配置基準の中で人件費やシフトをどのようにコントロールするのか)」 職員の採用や異動にて不足ないシフトが組めるようになった。採用者の夜勤業務が可能となるよう指導を集中して行った結果、R5年度早々にも夜勤が行える所まで育っている。</p> <p>⑤「収益力向上」 稼働率98%以上を目標に、看護・介護・相談各課が協力し、利用者の状況について細かな情報交換を行い、状態変化に速やかに対応する事で、入院による退所者ゼロを続ける事ができた。 実績では目標稼働率に0.3%満たなかった要因として特養入所による退所に対して、速やかな対応ができず稼働率ダウンに繋がってしまった。 認知症専門ケア加算の取得による収益アップについては、利用者様の入れ替え等により算定基準である認知症ランクⅢ以上に2名満たすことができず取得する事ができませんでした。引き続き、担当ケアマネに対して認知症ランクの見直し等を働きかけ内部研修を生かした施設運営が出来るよう努めます。</p>

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
短期	R3 実績	99.5	97.4	94.2	100.0	97.6	99.7	100.5	98.8	99.4	100.2	100.0	98.4	98.8%
	R4 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0%
	R4 実績	100.0	98.7	94.0	99.8	98.4	99.0	92.3	94.3	98.4	99.7	100.0	99.4	97.8%

令和 4 年度
第 9 期
事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 31 日



社会福祉法人 元気村
たかのす翔裕園

令和4年度 たかのす翔裕園 事業報告

施設基本方針

5年先も仲間が笑顔でいられる、長生きできる施設 職員力を発揮させ、何でも挑戦できる施設を目指す。

施設年度目標

1. 管理者主体に、営業体制を整え、2か月先の利用者確保・待機者等把握し、収益確保を図る。
2. 中途採用職員及び幹部職員の育成を図り、利用者様に喜ばれる施設づくりに努める。
3. 利用者様の状況より、介護サービス増の提案継続とシフトコントロールを密に行い、経費のカバーを図る。

重点項目に対する実績報告

【有料】 年間平均稼働率 96.8%(目標95%、対目標比+1.8%、対前年比+8.6%)

・上半期6名、下半期5名の入居契約出来ました。退去の方も上半期6名、下半期5名あり、平均27名維持で稼働率、目標達成 収益も目標比+2.6%となりました。

【訪問介護】 年間平均利用率 83.1%(目標89.5%、目標比-6.4%、対前年比+3.8%)

・7、8月介護度3以上の方の退去後、介護度の低い入居者契約有又、11、12月仮申込を頂くも、本人の同意が得られないケース4名有、入居者獲得が計画的にできず、利用率未達となりました。第4四半期において、外部先1先契約できましたが、収益は、目標比-5.5%となりました。介護保険利用率も平均69%実績、5年度72%以上を目指します。

①差別化/付加価値をどのようなものをどのように作っていくか

・5~8月で、5名の職員退社(結婚等で県外転居2名他事由)あり、9月までに4名の契約職員等採用も、育成が遅れる。第四四半期も、自己都合よりパート職員2名退社あり、職員の確保が5年度も課題となりました。
・若い契約・パート職員2名をアクティビティ担当に人選し、入居者と楽しめる企画実践が第四四半期より出来ております。

②組織力の強化

・各部署ごと少人数での打合せは適時できましたが、体調面不安、課題のある職員との面接適時、実施いたしました。
4年度において離職者7名となり、反省しております。5年度は正職員の増加、育成で、職員力向上を進めます。

③採用力の強化

・有料は、8.9月に調理員兼事務員補助の契約職員と看護師パート計2名採用し、各部署兼務で業務体制の整備を進めましたが、人員不足の現状あり、新年度も看護師、調理員の増員採用を進めます。
・訪問介護は、5月ベテランの契約ヘルパー職員1名採用、9月はヘルパー資格有の契約事務員採用できましたが、下半期は、新たな採用が出来ず、有料と同様に人員不足が続きましたので、訪問介護員(正職員)の増員採用を進めます。

④生産性の向上

・4年度、契約・パート採用職員の能力を見ながらシフトコントロール、部署替えも視野に入れて対応も、第四四半期では不安定な職員の退社2名もあり、人件費率54%実績となりました。

⑤収益力の向上

・5~8月に5名の職員退社有、営業体制が整えず、また11、12月仮申込を頂くも、本人の同意を得られないケース4名有、入居者獲得が計画的にできず、10月より食費の値上げ実施も、収益予算に対して、-176万の実績となる。

【全体統括】

・収益7848万実績(目標比97.8%)、稼働率、経常は目標達成。5年度は収益確保、黒字維持を常に心がけ、目標達成を目指します。職員の増加、育成で、営業体制を整えること、環境整備を常に行い、働きやすい職場創りを進めます。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
有料	R3 実績	91.9	82.7	82.6	89.3	92.5	90.0	81.8	84.8	89.6	89.9	92.5	90.7	88.2%
	R4 目標	92.5	92.5	94.0	96.0	96.0	95.0	96.0	95.0	96.0	96.0	95.0	96.0	95.0%
	R4 実績	96.4	99.3	99.0	97.9	95.4	93.0	99.8	98.0	93.1	96.4	98.5	94.4	96.8%
訪問介護	R3 実績	84.3	76.7	77.1	80.0	83.0	82.3	75.5	76.0	79.1	80.5	79.2	78.4	79.3%
	R4 目標	83.0	86.0	89.0	90.0	91.0	91.0	92.0	89.0	92.0	91.0	89.0	91.0	89.5%
	R4 実績	86.7	82.2	85.0	84.7	82.4	82.8	82.7	81.9	74.4	80.8	85.2	88.1	83.1%

令和 4 年度
第 8 期
事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 31 日



社会福祉法人 元気村

くまもと龍田翔裕園

令和4年度 くまもと龍田翔裕園 事業報告

施設基本方針
新体制になっても今までと変わらないサービスの提供。個々の自発性の向上に努める。
施設年度目標
毎月新規10件獲得し、稼働率97%を目標とする。
重点項目に対する実績報告
<p>～短期入所～</p> <p>①「差別化/付加価値をどのようなものをどのように作っていくか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ個々の目標を公表・周知し、評価し合うことでサービスの質を高め合う ⇒後半になってくると目標が薄れてくるので振り返りの時間を作るともう少し気が引きしまったと思う。 反省点ばかりではなくほめる場も作って行きたい ・毎月実施している通年のイベントに加え、バイキング食の実施にて他施設との差別化に繋げる ⇒コロナで外出の機会は減ったが食のイベントなど園内活動は必ず行えたので今後も続けていきたい。 ・ケアホテルにしはら翔裕園との情報共有・協力体制強化を図る ⇒満床時などスムーズにケアマネさん利用者さんにお知らせできた。連携を取ることでケアマネさんに好印象が与えられた <p>②「組織力の強化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新管理者とリーダーによるスタッフ面談にて信頼関係の再構築にて離職率低減に繋げる ⇒面談でゆっくり話す時間を取れたが離職率低減には繋がれなかった。面談は継続しつつ、小まめに会話を持つように努める <p>③「採用力強化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離職率ゼロ。採用は中途にて随時補充 ⇒今年度退職者は10名。転勤や病気による退職も多かった。余裕のある勤務体制にし負担が大きくなるよう努める <p>④「生産性の向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準に沿った人員配置 ⇒人員はクリアしているものの常に新人さんがいる状態が続き職員の負担が大きい。 <p>⑤「収益力向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期利用者の体調管理と指導にて、稼働率の変動を避ける ⇒体調指導早めの対応は心がけているもののコロナ感染後の体調が戻らない方が多く利用中止になってしまう方が多かった。 コロナに関わらず今後も体調管理には努めていきたい。 ・10件/月の新規獲得 ⇒月平均15件の新規獲得ができた。契約のみの方もいるので今後も15件くらいの新規獲得を狙っていく。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
短期	R3 実績	105.6	107.6	102.3	106.8	98.8	100.5	97.2	95.7	101.9	98.8	97.0	102.2	101.2%
	R4 目標	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0%
	R4 実績	100.0	102.0	91.0	98.0	100.0	97.6	95.0	95.0	62.0	86.0	83.0	85.4	91.3%

令和 4 年度
第 8 期
事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 31 日



社会福祉法人 元気村
西原ケアタウン元気村

令和4年度 西原ケアタウン元気村 事業報告

施設基本方針

新たなスタート。多様な個の力を持ち寄り、大きな力を生み出そう！

施設年度目標

10月には黒字化

重点項目に対する実績報告

①差別化／付加価値をどのようなものをどのように作っていくか

・ケアホテルにしはら翔裕園とくまもと龍田翔裕園の管理者と相談員との連絡・連携を図り、シニアハウスの入居に繋げ
 (デイサービスとショートステイの利用。ショートステイからシニアハウスへの入居。シニアハウス入居までのショートステイ利用)
 ⇒ケアホテルにしはら翔裕園からシニアハウスへの入居10件。そのため、ケアホテルの稼働が低迷

・西原ケアタウン元気村の全事業が分かるようなパンフレットを作成し、ケアマネからの相談に即時に対応
 ⇒パンフレットを作成し、即時対応する事が出来た

②組織力の強化

・3ヶ月毎のスタッフ面談の実施
 ⇒未達

③採用力の強化

・ハローワーク窓口との関係性の強化
 ⇒足を運ぶ事はできず未達。しかし、2名の紹介をいただく。

・求人では一番反響の大きかった地元の情報誌掲載
 ⇒情報誌掲載使用せず、職員紹介にて6名の雇用に繋がった

④生産性の向上

・適した人員配置
 ⇒12月によく人員整う

⑤収益力向上

・11月シニアハウス満床＝訪問・通所の稼働率向上
 ⇒1年間で9名(御逝去・特養への入所・他サ高住への転居)があり、50名満床となったのは1年かかってしまった

・イベントの立案実施(毎月)
 ⇒毎月実施し、入居者様・利用者様の満足度アップに繋がった

・イベントのSNS情報発信及び実施の報告
 ⇒達成

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
サ高住	R3 実績													
	R4 目標	45.0	55.0	70.0	75.0	80.0	85.0	85.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	78.8%
	R4 実績	16.0	36.0	46.0	52.0	60.0	60.0	64.0	80.0	84.0	88.0	88.0	90.0	63.7%
短期	R3 実績	86.0	96.9	95.0	107.0	93.2	83.8	79.8	82.5	87.7	102.0	108.0	110.0	94.3%
	R4 目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0%
	R4 実績	98.0	100.0	96.3	99.3	100.0	97.8	87.0	69.1	69.0	88.2	76.9	78.4	88.3%
通所	R3 実績													
	R4 目標	10.0	15.0	20.0	22.0	25.0	28.0	33.0	38.0	40.0	42.0	45.0	50.0	30.7件
	R4 実績	16.5	33.5	48.8	57.5	63.1	65.7	66.0	76.3	64.1	76.3	87.0	88.0	61.9件
訪問 介護	R3 実績													
	R4 目標	462.0	481.0	499.0	518.0	536.0	555.0	573.0	592.0	610.0	629.0	647.0	693.0	566.3件
	R4 実績	37.0	122.0	256.0	332.0	331.0	384.0	475.0	462.0	818.0	801.0	795.0	960.0	481.1件